

テーマ

「子どもたちの今と未来の幸せを願って」
～一人ひとりの豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を～

第62回 北海道私立幼稚園教育研究大会

道央ブロック大会

(石狩、小樽、南空知、苫小牧・日高)

開催日 令和元年(2019年)8月31日(土)

— 研究紀要 —

幼稚園教育研究大会道央ブロック大会



江別市私立幼稚園連合会

第62回 北海道私立幼稚園教育研究大会道央ブロック大会 (石狩支部、小樽支部、南空知支部、苫小牧・日高支部)

- 開催日 令和元年(2019年) 8月31日(土)
- 記念講演
 - ◇講師 岩城 敏之氏
 - ◇演題 子どもの主体性を育む環境づくりと大人のかかわり
- 公開保育

会場	公開幼稚園、こども園	公開級数	公開保育のテーマ	指導教諭
A	認定こども園 若葉幼稚園 園長 河野 行秀	3	礼拝・リズム遊び	石田佑里亜、中川可菜 本間佳那子、福田清津子 窪田莉央、村上明日香
B	江別大谷幼稚園 園長 山下 和人	5	元気に身体を動かす保育活動	高橋雛子、白戸千弥 鈴木真実 杉本彩夏、田代紗英
C	江別あかしや幼稚園 園長 山崎乃倫子	6	行事に向けての活動	渡辺蘭、野村遙香 福屋香織、松山いち子 木戸奈緒子、安部麻里菜
D	上江別幼稚園 園長 木村 吉憲	8	園の特色ある保育活動	福田遵子、永谷美久 高橋千帆、松本麻美、新森彩夏 石船聖子、八島希実、奈良歩香
E	のっぼろ幼稚園 園長 元木 良子	8	体づくり ～一人一人がのびのび体を 動かして楽しむ～	山田順子、中家彩里、高橋瞳 赤尾美紅、川村亜利沙 本多友里香、米森絢乃、鈴木祐衣
F	認定こども園 あけぼの 園長 若林 卓実	6	主体的な遊びの気付きから集 団あそびへの展開、発展	本間雄太、山内磨美、山谷すみれ 前田璃佳、河村葵、秋山美仁 津田勇平、三浦優里奈、藤田麻友 山下麻衣、菅原あさみ
G	大麻ひかり幼稚園 園長 吉田 達臣	3	園庭で草花の色水遊びや体を 動かしてのびのび遊ぶ	小向法子 大野晃公哉 伊藤真帆
H	大麻藤幼稚園 園長 天野 礼子	3	戸外で遊ぼう	太田智恵 佐藤睦美 谷内木乃花
I	認定こども園 第2大麻こども園 園長 近江さつき	5	縦割り保育と子どものつな がり	田邊ともみ、加藤絢巴 平間麻衣、一戸真悠 菊地奈美
J	認定こども園 大麻まんまるこども園 園長 宮崎 善昭	4	自由な表現活動	上枝千優、坂本佳子 土居優花 菅野千里
K 免許	認定こども園 元江別わかば幼稚園 園長 土谷直穂実	7	一人ひとりが尊重される保育	和田実樹、塚本昭史、村上結菜 谷川真子、遠藤幸太 宇野綾華、加藤悦子
L 免許	元野幌めぐみ幼稚園 園長 小原 愛香	6	運動会に向けての取り組み	鈴木彩子、高橋茉莉 石崎みゆ、阿部莉奈 中湖亜杏子、森明日香

第62回 北私幼研究大会道央ブロック記念講演

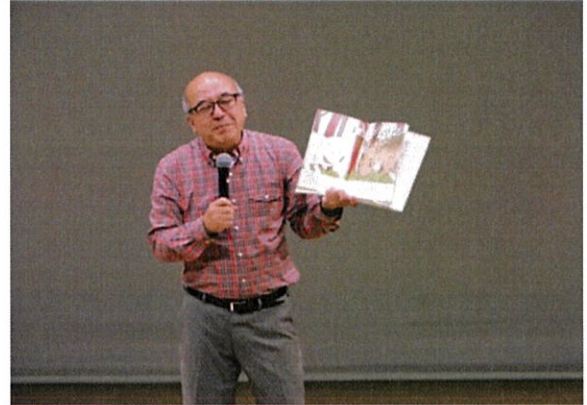
演題 【子どもの主体性を育む環境づくりと大人のかかわり】

講師 岩城 敏之氏

○岩城さんは、1956年に京都府で生まれた。実家がおもちゃ屋をしていたことがきっかけで、おもちゃに興味を持ち、勉強を始めて1987年に絵本とヨーロッパ玩具の店『ぱふ』を開業。現在は子どもの遊びの環境や玩具・絵本について、幼稚園教職員研修や保護者たちへの講演会の講師としても活躍中である。また、絵本『メチャクサ』をはじめ、『幼児のおもちゃガイド』『赤ちゃんのおもちゃガイド』『子育てのコツ』など、多数出版している。

今回の講演は、ある園での遊びや、実際にどんなおもちゃを使っているかをDVDで観ることから始まった。そのDVDの中では、1歳児がカードゲームをしていたり、以上児が『レナモザイク』や『プリズモ』『リモーザ』などの自分たちで考えて作品を作り上げていく様子が取り上げられていた。1歳児にカードゲームは難しいと感じるが、年齢にあったルールを作ることで、何歳でも遊びを楽しむことが出来る。幼児にとって、“仲良く遊ぶ”ことは難しいことである。その為、ごっこあそびや共同製作を通してイメージを共有したり、ルールを守って遊んだり、人とかかわる力を育てる遊びを仕掛けていくことが大切であると述べていた。また、今の子どもはスマートフォン・ゲーム・テレビとかかわる時間が多すぎて、実際に物事を経験することが少ない。その結果、岩城さんの表現で“アホな子”が育つと話した。逆に、『聞く』『見る』『真似する』の3つが出来る子どもは、どんどん賢くなるそうだ。たとえ文字が読めたとしても、そのものの意味が理解できないと意味がない。そのためには、色々な実体験が必要だと語った。

岩城さんは、保育室を整えることが重要だという。それは、『自然』『人』『物』の物的環境のうち、『物』が一番整えやすいからである。大人の教育的主体性を高めるためにも、私たち幼稚園教諭が今すぐに出来ることは、保育室を整えることである。いらぬものは見えないように隠したり、腰から下は子どもが見て、触れるものを配置したり、とにかく部屋を美しくすることで子どもも自分の興味があるものを見つけやすいのだという。



子どもの頃に、「私の言う通りにしなさい」と言われて育った人は、大人になり、働きだしても楽しさやありがたみが分からない人になってしまう。そうならないためには、子どもの主体性を高めていくことが大切である。主体性とは、『人生の主人公は私！！』ということ。また、99人が「違う」と言っても、1人だけが「違わない」と言っても良いということである。子どもが面白いと思う物、興味のあることを見付けて、どんどん部屋の環境を整えていくことが重要。その為には、集中している子どもは今何をしているのか、困っている子どもにはどんな手助けをしたら良いのか、一人ひとりの子どもを知り、理解することが必要だと語っていた。

今回、レジュメも配られたがその通りには進まなかった。しかし、岩城さんの話が面白く、わかりやすかったため、あっという間に時間が過ぎていった印象を受けた。会場は終始笑いに包まれて、講演は終了した。

〒067-0015 江別市5条5丁目8番地

テーマ 『礼拝・リズム遊び』



- ◆司会者 清水 孝子 (若葉幼稚園)
 ◆記録者 神保 幹恵 (若葉幼稚園)
 梶尾 昌代 (若葉幼稚園)

☆公開保育交流

保育内容：礼拝を基本に神様のお話を聞く

ピアノの曲に合わせて表現する楽しさを知る

当園は、認定こども園として0歳児から就学前のお子様をお預かりし、目に見えない方(神様)から愛され、生かされ、見守られている日々の園生活を通して安心する心、感謝する心、やさしい心が育てられていく事を大切に、キリスト教精神に基づいた教育、保育をおこなっています。

※本日の保育のねらい、具体的な実践内容

〈礼拝〉

園のホールと棟続きに礼拝堂があるので、親しみ易い場所となっています。

当日は、3・4・5歳児がこの礼拝堂で合同礼拝を行いました。これは、毎日の礼拝の他に、週1回3クラスが合同で行っているものです。礼拝堂と言うこともあり、クラスでの礼拝以上に背筋がピンとするようです。子ども達の大好きな讃美歌「神様に感謝」や「コスレボナヨ」を手話付きで賛美し、暗証聖句をみんなで言いました。その後、宗教主任の先生から「気づかない恵みがいっぱいあるよ」との聖話を聞きました。みんな、いい表情で参加していたと思います。

〈リズム遊び〉

礼拝堂からホールへ移動し、合同で行いました。

年少 ひかり組 26名 (男児13名 女児13名)

年中〇そら組〇28名 (男児15名 女児13名)

年長 にじ組 24名 (男児14名 女児10名)

78名のうち、諸事情により20名程の欠席者がいる中での「リズム遊び」となりました。

うさぎ(全クラス)は、体をほぐす準備体操として行っています。年齢により脱力が上手にできるのが、お分かいただけたかと思います。

うま(にじ・ひかり)は、ピアノの音がオクターブ高くなると、膝を伸ばし更に大きな馬を目指します。

あひる(にじ・そら)は、陽気なあひるを表現していますが、膝をしっかり曲げてよちよち歩き、羽に見立てた両腕は、指先まで力が入っていました。年長のにじは更にそのまま、後ろ向きで進みカッコ良い所を見せてくれました。

かめ(にじ)は、《もしもしかめよ かめさんよ…》の曲に合わせて、うつぶせで片手ずつ足首を持ち胸を反らすのですが、年齢とともに胸の反りが大きくなり、柔軟性が養われている事がわかります

めだか(ひかり)は、手の平を合わせた両腕を、肩まで

あげて走るの、手が下がらないように気を付けて走ります。方向転換も楽しく行っていました。

とんぼ(そら)は、《とんぼのめがね》の曲に合わせて両腕が羽になり走りますが、最後に枝にトンボが止まるように行うバランスはかなり、難しいようです。

スキップ(にじ)は、一人だとスムーズに曲に合わせてられますが、人数の指定と共に手を繋いで…となるとバランスが保てなくなるようです。しかし、そこは年長組らしく、友だちの速度も考慮しながら進んでいたようです。

汽車(ひかり)は、勇ましい蒸気機関車のように腕の車輪を回し、走ります。ポップーと汽笛が鳴るところは、足の指を床に付け、うつ伏せになりますが、みんなとても大好きで上手です。

兄弟すずめ(にじ・そら)は、わらべ歌感覚で楽しんでいました。3人一組になり、兄さんすずめを見失わないように飛んでいく姿は、可愛かったです。

☆公開保育研究(質疑応答)

発言者 1

うちの園でも年少でリズム遊びをしています。今日のような形ではなく全員で一斉に動いて行っているの走って楽しむリズムだとぶつかってしまう場合がありますが、今日は年齢ごと、男女別に分かれて行っていたので参考になりました。

リズムに合わせて身体を動かす事で、子ども達が楽しく伸び伸び行っているのは良いことだなあと思いました。今日の先生や子ども達の表情を見ていて本当に楽しそうに生き生きと行っている姿を見て、私たちの園でも続けていっていいのだと新たな発見や自信を持つことができ、参考になりました。

発言者 2

私たちの園では職員が一丸となって色々な事に取り組んでいますが、今日の公開保育の様子を見て職員が大変多く、連携を取る事が難しいのではないですか？認定子ども園になるとなかなか時間を取れないという事を聞いています。どのようにチームワークを取ったり、連携したり協力して行っているのか教えていただきたい。

(A)今、年少・年中各3名、年長2名の保育士が配置されています。多いと思われるかと思いますが、まずはクラス担任を中心にクラスの保育内容を決めて1年間の保育目標を決め、すぐに副担任と協力をしてこの子にはこのような支援をしていきたいと担任の思いを伝えていく事で常に会話を大事にしてコミュニケーションをとっています。

3人目の保育士は特に支援の必要な子どものそばにしているようにしているので、担任中心にその子を見守りながらとくにこう言った支援・基礎が出来ているので次

はこんなレベルアップをしていきたいといった、「報連相」を特に重要視しながら行っています。

学年となると1クラスずつしかないので、毎日少しの時間でも会議の時間を取り、必ず3担任と副園長と主任で今日の保育内容や行事について「この時こうだったよね。ああだったよね」と意見を素直に伝え合い、そしてどういう目的を持ってやったかを伝える・話していく事を繰り返す中でこういった形が出来てきているかなと思っています。

発言者 3

私たちの幼稚園は、若葉幼稚園とは違った形のわらべ歌や昔話を中心に保育を行っているため、今日のような皆で活発的なリズム遊びをあまり取り入れていません。本当に子ども達がキラキラしている姿をみて、たまにこういうのもいいな、私たちも少し身体を動かさなければいけないなと思いました。

リズム遊びを初めて行うとき、子どもをどのように導き、どのように関わっていったのかを教えてください。

(A)まず初めに保育士が園内研修を行いました。江別市で研修があり、副園長を中心にほかの園の先生と皆で同じように統一しました。そして仕事終わりに正職だけではなく殆どの先生が参加して皆で周知して同じことを指導できるように統一しました。その中で保育士がまず見本になる、楽しんでこんなことをしたいあんなことしたいという誘いの方向で身体を動かして行いました。その中で、初めは足を立てるということもわからない子が殆どでしたが職員が分かっている分、ひとりひとりに丁寧に足を立てる・指を立てるとこういうことなんだよと伝えました。始める前に今日はこういうことに気を付けよう話し、1つ1つの全てが100点を目指すのではなく、少しずつの積み重ねが、今できるようになってきました。自信を持ち楽しんで行ってきた結果だと思います。

発言者 3
子ども達が楽しんで参加している姿を見ました。一番最初の取り入れ方、特に年少に対しての1番最初の取り入れ方をもう少し掘り下げて教えていただきたい。

(A)年少が初めにリズム遊びを取り入れる時は年長と一緒に合同で行い、年長がお手本になりました。

どういうところがポイントか年長も改めて確認してその後年少が行いました。人数が多いので男女で分けて「年長女の子の次は年少女の子」等、年長を間に挟むことでそれぞれが確認になり、動きを忘れてしまうので前後で年長を挟んでどんどん進めていきました。今まで自分たちも同じように先輩にたくさん教えてもらってきた分、今度は自分たちの番だと思い、意気込んで頑張ってくれています。

テーマ 『元気に身体を動かす保育活動』



◆司会者 細野みゆき（江別大谷幼稚園）

◆記録者 伊藤 愛理（江別大谷幼稚園）

☆公開保育交流

《年少 ペんぎん組・りす組》

【本日のねらい】

ルールを理解して楽しく参加する

【各クラスについて】

どちらのクラスにも常時補助教諭が入り、全体のサポートを受けながら保育を行っている。入園当初は泣き声が響き渡っていて担任の指示も通らないような状況だったが、半年が経過して園の生活リズムが身に付き、少しずつできることが増えてきている。周りの様子に気づいたり友だち同士で教えあうなどの仲間意識も芽生えてきている。成長のスピードには個人差が見られるが毎日の積み重ねと経験を通して相手を思いやれるような心も育ってきているので今後もその心を大事にしながら過ごしていきたい。

【本日の活動について】

運動会の団体競技の一つ、年中小児で行う「ケーキをデコレーション」を見ていただいた。2学期が始まったのと同時に練習を始め、まだ数回しかやっていないが、競技のルールを理解し相手チームを意識して取り組んでいた様子が見られた。勝ってうれしい負けて悔しいという気落ちを受け止めながら、運動会当日に向けてひとりひとりが頑張る気持ちを持てるように取り組んでいきたい。

《年中 うさぎ組》

【本日のねらい】

活動を十分に楽しみ、のびのびと身体を動かす

【クラスについて】

ダウン症の園児の他、支援センターなどの療育を受けている園児が数名在籍しているため担任と補助教諭でクラスの運営に当たっている。

【本日の活動について】

4月から継続的に行っていた大きな布を使った遊びで楽しんだ。少しずつではあるが目標に向かって毎日運動会の練習を行っているので、たまには思い切り楽しめるものと、今日はこの活動を選んだ。いっぱい盛り上がってあそんだので、また来週から運動会の練習を頑張ってもらいたいと思っている。

《年長 くま組・ぞう組》

【本日のねらい】

運動会での披露を楽しみにし、向上心を持って活動する。

【各クラスについて】

それぞれのクラスの中に自閉症児など支援の必要な園児が数名いるため、サポートとして補助教諭がついて、発達に合わせた援助をしている。進級当初から様々な事に挑戦してきていて、お誕生会の司会やピアノなど年長ならではの活動を通して少しずつ自信がついてきてい

る。年中小児からも憧れられる存在になれるよう頑張っているところである。

【本日の活動について】

運動会に向けての取り組みとして組体操の練習を行った。組体操は1学期途中から始め、長い期間をかけての練習となるが、その過程を大切に、ひとりひとりが達成感を味わえるように取り組みを進めている。運動会では組体操の他にフラッグを使った演技やリレーなど盛りだくさんな内容ではあるが、友だちと力を合わせて行うことで少しずつ周りに目を向け、気づいたことを伝え合ったりする姿も見られるようになってきた。運動会本番まであと少しだが引き続き練習に励みたいと思っている。

☆公開保育研究（質疑応答）

（発言者1） 年中の保育を見ていたが、見ただけでこちらも楽しくなった。担任教諭の保育の仕方や子どもとの関わり方がすごく良いと思い、自分もまた月曜日から頑張ろうという気持ちになれた。園内でディズニーの曲が流れていたが朝はいつも流れているのか。

大きな布での遊びをやってみたいと思ったが、自分は年中児30人を一人で担任しているので、今日のようにひとりひとりを遊ばせていると終わった子が待てなかったり、まだやっていない子が待ちきれなかったりで大変なことになってしまうと予想されるが、全員で待っていてくれたり最後の子が終わるまでずっと歌を歌ってくれている様子を見て子どもたちがすばらしいと思った。特別な声かけとかもなくいつも待ってられるのか。

（A）9時45分にお片付けを始めるので、その合図としてディズニーの曲をかけている

園児20名に対して布の大きさは5m、サテン地を使っている。クラスでやってみるのであれば参考に。

園児の人数に合わせて長さを変えると良いと思うが、長い布の扱いが大変になるので試行錯誤して取り組んでみては。大布あそびは今日で4回目ほど。周りをよく見ないとお友だちとぶつかって危ない、待っていたらちゃんと自分の番がくるなどのことは特別注意をしなくてもわりと理解してくれているようだ。園全体で言えることだが、どちらかというとおとなしい子が多い集団ということもあり、このくらいの人数だと日常的に待っている。

（発言者2） 年長8人を担任しているが20人分くらいの元気さがあって毎日收拾がつかない。年長クラスをずっと見ていたが、みんな静かに話を聞いてくれていたのでどうやったらそんな形になるのかと思った。先生の話の仕方とかで子どもたちを注目させるコツはあるのか。

（A）今日は普段より静かだったように思う。先生が話をする合図としてピアノで音を出し、この音が鳴ったら話が聞けるようにこうやって座るんだよということを4月

から継続的に伝えてきた。子どもたちが騒いでいる時に先生も同じテンションで話してしまうと、どちらも大きな声になってしまうので、あえて小さな声で話したり、声が通らないような時は聞いていそうな一人の子に向けて話をして気づかせたりということもしている。

全体に言えることではあるが、特に年長児は就学が迫っているという事もあるので、話を聞かなくてはならない時はしっかり聞くという基本的な事は大事にしたいと思っている。

（発言者3） 自分の園と同じくらいの規模で同じ大谷ということで関心を持って見に来た。園児の質や朝のお参りから始まる場所など共通したところがあると興味深く見ていた。今年度、自分の園には突然多動の子が入園してきたため補助を3人採用してフォローに当たっている。保護者が子どもの障害を認めている認めていないということを含め、園で困り感があったり対応しなくてはいけないことがあったりするのではないのか。

年中だけがひとクラスのようなのだが、これは毎年そのようなクラス配分になっているのか。

（A）障害のある園児に対してのことは、子どもというより保護者への対応が難しいと感じることが多いのが実際のところだ。しっかりと受け止めて子どもの成長を見つめている保護者の方もいれば、認めて受け入れることが難しく、何も心配ないと頑ななご家庭もある。また逆に年令相応の成長で園としてはそこまで過度に心配しなくても大丈夫だと思われる子にたくさんの療育を受けさせ発達障害だと思ひこむような保護者の方もいる。

保護者にも障害があったり、祖父母に療育に通うことを反対されていたりと、それぞれのご家庭の事情が多様化していることもあり、保護者にきちんと理解して子どものために一番いい方法を考えてもらうのが大変だ。今後も続くことなので保護者とコミュニケーションをしっかりとって試行錯誤しながらやっていきたい。

1クラス20人くらいまでの少人数保育を謳っているため5クラスくらいがベストであることに加え、園舎の事情からどうしても5クラス分の部屋しかとれないこともあり各学年2クラスずつとはいかない状況である。

そのため毎年どこかのクラスが1クラスになってしまう。2年後3年後を見据えて入園の募集人数を変動させたりして対応しているものの、その年によってどこかの学年が1クラスだったり2クラスだったりと変わるのはどうかと保護者から意見が出ているのも事実。縦割り保育を導入すると解決されるのかもしれないが、横割りのメリットも多いのですぐということにはならない。この先もしばらくは園の事情を保護者の方に理解していただき協力を仰ぎながら保育体制の検討を進める。

テーマ 『感性をより豊かに表現する楽しさを ふくらませ、達成感を味わおう』



◆司会者 渡辺 蘭 (あかしや幼稚園)

◆記録者 木戸奈緒子 (あかしや幼稚園)
福家 香織 (あかしや幼稚園)
野村 遥香 (あかしや幼稚園)

☆公開保育交流

保育内容 「行事に向けての活動」

1・健康でのびのびした子どもを育てる 2・豊かな心を持ったこどもを育てる 3・考えることのすきな子どもを育てる を教育目標とし、特色である、「体力づくり」「音楽表現」「ことば遊び」を三本柱として、2学期には運動会とマーチング発表会と大きな行事があります。

様々な経験、直接具体的な生活体験を通して、健康な身体の基本・豊かな感情・人との関わりを大切にする心・積極的に物事に取り組む意欲を身に着けることが出来るように保育教育活動を行っております。

【年少 りす組、うさぎ組】

～はなかつぱお面作り～

年少組では「運動会に向けて競技に使用のお面を作ろう」というねらいを元に保育を行いました。幼稚園で毎朝行う体操を元気にとび跳ねたり、体を動かしたりする様子を見て子どもたちの笑顔がより引き出せるダンスを発売したいと思い運動会でのリズムの題材を決めました。はなかつぱのオープニングである「えがおのまほう」は知っている子も多く、1学期から喜んで踊りの練習をしてきました。

2学期より年少組に途中入園の園児が4名増え、満3歳児が6名となり、年少児に混ざり保育者や友達の見よう見まねで楽しく取り組んでいます。公開保育ではリズムで使用するはなかつぱのお面を作りました。1学期は、はさみを正しく持つこともままならず、補助したり、のりも指につくのが嫌ですぐ手を洗いたがったり、量がわからずたっぷりつけていたのが、「切る」「貼る」などの経験を増やしていったことで2学期には子どもたちのはさみが上達しました。事前準備の時から、はなかつぱの頭の花の色を塗ったり、口を切った時から、完成させ運動会本番でお面をつけ踊ることを楽しみにしている様子が見られました。当日はそんな様子を見て頂こうとはさみの製作工程をひとつ増やしましたが、緊張しながらもりのり、はさみを使い楽しんで製作している姿を見ることができました。1つずつ出来上がり完成に近づくにつれ、運動会への期待が高まっている様子が見られ成長を感じました。

【年中 らっこ組 ペんぎん組】

～リズム遊び～

年中組では、年長へ向けてマーチングに期待が持てるような声かけをしながら楽器あそびを行なっています。進

級したばかりの頃から、タンバリン・すず・カスタネット・トライアングルに親しみ、正しい持ち方や約束を守りながら、楽器を使い表現することを楽しんできました。楽器あそびを行って行くうちに、年長さんがマーチングを行う姿を見て、みんなでリズムに合わせて演奏したいという気持ちが芽生えていった様子でした。

その為今まではバラバラだったリズムが、音楽をよく聴こうとし、友だちと声を合わせながらたたこうとする姿が見られるようになってきました。

今回は「年長さんのようにリズムをたたいてみよう」という導入から、カスタネットで“みかん・みかん・と・と・とまと”のリズムを『さんぽ』の曲に合わせて演奏する設定をしました。この頃はマーチングに合わせてリズムを口ずさむ姿も見られたので、導入すると歓声を上げて喜んでいました。みかんなどの絵譜を順に黒板に貼っていくと、大きな声で答える姿が見られました。貼られた絵譜を見て、発声と同時に同じリズムを手でたたきながら確認していきました。絵譜を追いながらのリズム遊びは、子どもたちもすぐに理解し合わせてたたくことが出来ました。

カスタネットを使って演奏しようと声をかけると、楽器が使えることを喜び、曲に合わせて演奏することを楽しんでいました。また演奏していく中で、子どもたちから「今はみんなで合っていた」とか「バラバラだったよね」などの声が上がってきました。

今回の保育では、音楽に合わせて演奏する楽しさを味わうことが出来ました。これからは楽器の種類を増やしていきながら、リズム遊びを行っていきたいと思います。

【年長 いるか組 くじら組】

～マーチング練習～

マーチングはあかしや幼稚園の三本柱であり、年少組・年中組のときから練習を見学したり、普段の保育の楽器あそびを通して音楽的感性を徐々に身に付けていき、「年長さんになったらマーチングをがんばる！」という期待あふれる気持ちを持たせています。

4月より、年長組全員で床に板を敷いて、バチの代わりに割りばしを持つリズム打ちから始めました。第一段階では、基礎である一発打ちを全員でそろえることを目標に行い、そろうようになったら演奏曲の基本的な「みかん」や「と・と・とまと」などのリズムを一通り練習し、第二段階であるバチを実際に持って演奏曲に合わせてリズム打ちをしました。同時に姿勢づくりやはっきりとしたあいさつや返事の毎回の意識づけを行ったことや、ただ打つのではなくバチをそろえてお腹の前からすばやく肩の上・耳の横で11の字をするタイミングを身に付け、マーチング練習での集中力を高めていきました。

外部より指導の先生が来てくださり、「どのような楽器があるのか」「どんな音が鳴るのか」など楽器との出会いを演出してくださり、より興味や意欲を高め自分にはどの楽器が合うのかイメージ作りをしました。パートが決まってからは、パート毎に分かれて演奏・演技の基礎の練習を始めていき、身に付いたところで演奏曲に合わせて行いました。パート毎にしっかりそろった段階で全体での演奏・演技を合わせる練習をし、他のパートも意識しながら自分のパートを集中して合わせられるように繰り返し練習をしました。各パート演奏・演技をしっかり覚えてきたところで、外練習を始めました。自分の位置や並びを繰り返し覚えるまでゆっくりじっくり確認し、確実にできるようになってから入場・演奏・退場の順に曲をかけ、また繰り返し確認しながらスムーズに移動ができるように練習をしました。

今回の公開保育では、運動会に向けて『隊列や演奏・演技を全員でそろえよう』というねらいで行いました。大勢の人に見てもらうのは初めてなので少し緊張が見られ、力が入っていた様子でしたが、自分の位置や並びを覚えていることを確認し、今回のねらいに近づくことができました。

今後はさらに集中力を高め、演奏・演技をそろえることを重点的に行っていき、外部からの指導の先生のアドバイスも元に運動会の開会式と11月に行われるマーチング発表会に向けて、気持ちを一つに練習に取り組んで行きたいと思います。

☆公開保育研究 (質疑応答)

発言者 1 年長組のマーチングはどのくらい前から練習していますか

(A) 4月末から全員でバチ打ちの練習を始め、まずは、基本から指導しています。そこから希望をとり、それぞれの楽器に決まります。基本ができてから、楽器を使用し練習しています。大体、5月中旬くらいにパートが決まり、自分のパートが決まってからはパートごとの練習になります。マーチング担当の先生たちで進度を相談しながら全体で合わせたり、外で練習したりと段階を踏んでいます。

発言者 2 指揮者の指導で気をつけていることはなんですか

(A) 指揮者さんにはリーダーシップを取ってもらわなくてはならず、笛をしっかり吹いてもらったり、みんなを引っ張り、パキパキと動けるよう多少厳しく指導することもあります。演技も難しいので、楽器と同様基本から指導しています。基本の練習は、毎回必ず確認し、子どもたちの様子を見ながら新しい演技に移行します。

テーマ 『園の特色ある保育活動』



◆司会者 上村 美幸（上江別幼稚園）

◆記録者 永谷 美久（上江別幼稚園）
松本 麻美（上江別幼稚園）
石船 聖子（上江別幼稚園）

☆公開保育交流

保育内容：当園の特色ある保育活動を通して、友達との
かかわりを持ち楽しく活動する。

上江別幼稚園の園児数は、年少67名、年中73名、
年長90名、総数230名の幼稚園です。

子ども達の自由遊びの時間は、広い園庭でのびのび遊
び、お友だちとたくさん関わりながら自己発揮できる場
です。幼児期の遊びが学びの土台と考え、「つよい子、
やさしい子、かんがえる子」を教育目標とし、集中して
お話を聞くことも大事にし、静と動のバランスを考えメ
リハリをつけながら保育活動をしています。

春、夏、秋、冬と季節の変化を感じながら、冬は園庭
の裏に大きな雪山ができ、そり滑りが大人気です。

特色のある活動では、

- ①年長になると、春にはよもぎ摘み、よもぎ団子作り、
田植え。秋には稲刈り、稲落とし、おにぎり作りとプ
ロセスを体験し、食育活動をすすめています。
- ②毎日、文化継承のわらべうたや絵本の読み聞かせを行
い、発表会では絵本を通しての劇作りをしています。
- ③今日の年長でテレビ視聴後の活動をしましたが、放送
教育が主ではなく、保育教育活動と融合させた放送番
組を有効活用しています。また、教育課程を2年ごと
に再編し、上江別幼稚園独自の保育教育活動を行って
います。

※本日の保育の各学年の活動のねらい、内容について
〈年少 いちご組、もも組〉

年少は2クラスあり1クラス34名という人数が多い
学年です。入園当初はクラスの半数がオムツを着用して
いて、列に並んで歩くのも難しい状態でしたが、保育室
からトイレへ行くわずかの距離でも整列して並んで歩く
ことを習慣にしていって集団生活も徐々に身につしてい
きました。6月にあった運動会では大きく成長してクラ
スも少しずつ落ち着いていきました。

いちご組では本日お相撲大会を行い、これまでの取り
組みとして、もも組と勝負をしてきました。初めは「や
りたくない」と泣いていた子もいましたが、今では自分
の名前を呼ばれると笑顔で土俵に上がるようになりまし
た。本日、担任が呼んでいた四股名は保護者に協力をし
てもらってご家庭でお子さんと一緒に考えてもらったも
のでした。いちご組の子どももお気に入りの様子です。

もも組は、シャボン玉をしました。公開保育をするに
あたって何をするか考えた時に、広い園庭でのびのび遊
べるものを設定したいと思い、運動会のプレゼントで子
どもたちに渡したシャボン玉をご家庭で楽しんでもらっ
ているようなので、幼稚園でも友だちとシャボン玉を楽
しんでもらえたらと思って決めました。今まで、もも組
でシャボン玉をしたことがなく、子ども達が正しく吹け
るのが心配だったので、「フー—」と息を吹いてパイ

キンマンをやっつける！などのテーマを設定して息を吹く練習をして今日に臨みました。

また、後半に行った大きなシャボン玉は、針金にモールを巻き付けて作りました。うまく吹けない子も楽しんでくれたのではないかと思います。見学の方も一緒に楽しんでもらえていたら幸いです。

〈年中 ひまわり組、こすもす組、さくら組〉

ひまわり組では、ホールを使ってゲームを行いました。今日は一クラスでの活動でしたが、今までもクラス対抗で、すもうやゲームなどを行い、勝ち負けというものを体験できるように保育の中に取り入れてきました。一学期では、運動会の練習を通して、より勝ち負けを意識するようになったと感じます。運動会では個人の競技だったので、今回はチーム戦で、協力して遊ぶ事ができるように、日案を立てました。

こすもす組は、絵の具での共同制作を行いました。

今日の活動では、「おおきなおおきなおいも」の絵本に出てくる「イモザウルス」を描こうというテーマでした。先日、園でいもほりが行われ、子ども達にとっても身近な題材だと考え、決めました。

子ども達の今日の様子としては、テーマの題材よりも、絵の具を使った活動という事がとても楽しかったようで、夢中になってダイナミックに描く姿がみられました。また、模造紙の下に敷いた新聞紙は、前日に子ども達と一緒に繋げて作ったものです。今日は、床を拭くなどの片づけまで、自分達で行う事ができて良かったと思います。

さくら組は、普段から行っているわらべうたを3つ、展開していきました。本園では、わらべうたを保育の中に多く取り入れています。毎週水曜の午前保育日に園内研修を行っているのですが、その中で、教頭や先輩の先生から、たくさんのわらべうたを学ぶ機会があり、それを各クラス、各学年ですぐに子ども達と一緒に行うなど、保育者自身の身になるように心掛けています。

また、園外で行われるわらべうたの研修会にも積極的に参加し、覚えてきたものを先生方に伝え、保育に取り入れていくという事もしています。

〈年長 うさぎ組、りす組、ぱんだ組〉

本日の公開保育内容で年長組3クラスは、テレビ番組視聴を取り入れた保育を公開しました。テレビ番組の視聴を利用する際は、上江別幼稚園の理念でもある、子ども自らが環境に関わり、いきいき・のびのびと活動する子どもの育成を念頭におきながら、テレビ番組を効果的に見せていくにはどうしたらいいのかを話し合い、保育に取り入れています。その中で、日々の保育活動とテレビ番組を意識的に結び付けることにより、子ども達の好奇心、興味、関心、意欲を高め、自主的、主体的な活動を促すことができると考え、日々保育計画・実践をしています。

年長3クラスとも活動内容は違いますが、テレビ視聴を導入として保育を展開していきました。

子ども達の様子としては、普段から自由遊びの時に廃材遊びは楽しんで行っているため、抵抗感なく取り組む事ができていたように思います。いつもとは違う環境に戸惑いが見られるかと思いましたが、自分で考えて作るという活動内容に、いつも以上に集中力を発揮して取り組んでいたように感じました。この活動をきっかけに、これからの生活の中でまた新たな楽しみ方を子ども達が主体的に見つけて行けるように環境を整えたり、時には刺激を与えながら過ごしていきたいと思います。

☆公開保育研究（質疑応答）

問1 園内に掲示してあった職員紹介の写真がありましたが、職員構成はどのようになっていますか？

- ・正職 理事長、園長、教頭、事務長、主幹、クラスの担任（8名）バス3台運転手兼環境整備（3名）
- ・非常勤 年少組補助（1クラス2名ずつ）
年中組補助（1クラス1名）
年長組補助（1クラス1名）
補助の先生は特別支援や療育のお子さんをサポート。
- ・預かり保育（専任3名）事務補助兼補助教諭（1名）

問2 調理室は何に使っていますか？

- ・給食は外注で届きますので使用していません。毎月の誕生会は「カレーの日」となっています。お手伝いのお母さま方にカレーを作っていただき、子ども達が持ってきた白いご飯にかけてもらいお祝いします。

他に畑で収穫した、いもや枝豆を塩茹でて昼食に出しています。

問3 園庭にあったガンダムは何でしょうか？

- ・園長が作った作品で、中に人が入れるようになっています。3月の誕生会で職員が「おおきなかぶ」の劇をするので、色々なキャラクターで登場します。

YouTubeにも出ていますが上江別幼稚園のホームページをご覧ください。

問4 遊具に付く担当はいますか？

- ・毎月のシフト表にそって、遊具に付く担当がいます。その場を離れる場合は、近くの先生に声を掛けてから離れるようにしています。

問5 物入れをどのように活用していますか？

- ・遊具を入れている他に、発表会の衣装や小物類を保管しています。保護者からの衣装を作っていただくことはありません。

問6 園庭の竹の登り棒はどう使っていますか？

- ・運動会で年長が縄とびと登り棒のどちらかを選択して発表します。運動会の発表の時は、フィールドの中央に設置しますが、その後は位置を変えて設置し、自由遊びで使えるようにしています。

テーマ 『体づくり～ひとりひとりが のびのびと体を動かして楽しむ～』



◆司会者 山田 順子 (のっぽろ幼稚園)

◆記録者 米森 絢乃 (のっぽろ幼稚園)

☆公開保育交流

<ひよこ・年少組> わらべうたあそび

本日見て頂いた“わらべうた遊び”ですが、毎日の遊びの中で楽しんだり、今日のように全園児が集まって体操やわらべうた遊びなどを行う“集合”という時間にも楽しんでいます。クラス毎に行ったり、年長児と組になって優しく教えてもらったりと、異年齢との関わりも楽しみながら取り組んでいます。この“わらべうた遊び”は、昔から日本に伝わる伝承遊びで、音楽的な要素、心地よい旋律の歌や、ゆったりとしたリズムに体を預けて楽しめます。また特に“わらべうた”の拍を意識すること(リズム感を育てる)、友達と楽しく取り組む(仲間とのつながりを育てる)ことを大切に指導しています。初めは二人組や三人組で手を繋いでいくことは、年少児やひよこ組(満3歳児)には難しいですが、くり返し取り組んでいくことで仲間関係が深まり、二人組などで手を繋いでいくことも子ども達だけで上手にできるようになっていきます。このように、“わらべうた遊び”は、友達との絆を深め、集団(仲間)としてのつながりを確かなものにするとても貴重な活動です。

本日見て頂いたようにこの時期のひよこ組、年少組はまだまだ成長途中で、みんなで手を繋いできれいな輪を作り維持することや二人組を作って広がることなど難しいところが見られますが、三学期には一年の集大成として保護者の皆様に“わらべうた遊び”を発表する場を設けていますので、そこに向けても、日頃から色々な“わらべうた”に触れて、友達と楽しく取り組めるようにしています。

<年中組> リズム運動

今回年中組で行ったリズム運動(さくらさくらんぼを参考にさせていただいています)は、生まれてからの成長発達を運動にしているものです。例えばハイハイをしっかりしてこなかった子が、【両生類のようなハイハイ】をすることで、今までの運動の中で不足していた、筋力や骨の成長を補うことができるようにと、考えられています。のっぽろ幼稚園では満3歳、年少の頃から取り組み、もちろん年長になっても続けていく、とても大切にしている活動の1つです。年少の頃は「うさぎ」から始まり、

学年が上がるに連れて運動の難易度も上がり、レポートも増えていきます。

リズム運動の取り組みの良い点は、上手下手を意識せずに、とにかく楽しく身体をうごかす！ということです。後半になるにつれて、しっかり身体を動かしたり、待つときは友達のことを応援したり落ち着いて座るなど、“動”“静”のメリハリをつけること、そして、身体の動かし方の細部にこだわらずに、なんでもやってみようという気持ちが育つように、ということを中心に心がけて取り組んでいます。

また、リズム運動はずっと体を動かしているわけではなく、種目によって男女やクラス毎など順番にしています。そのため、なんの運動なのか、次は誰なのかを保育者が指示をしなくても、音を聞いて順番を自分たちで“考えて動く力”も育つように心がけています。9月の運動会では、このリズム運動の中でやっているスキップを発表する予定で、全員が自信を持ってできるように取り組んでいる最中です。また今後は、更にリズム運動の種目を増やしていき、3学期の生活発表会では様々な運動を発表したり、その中でリズム運動も見てください。また年長組に向けて期待が持てるように少し難しいことにもチャレンジして行きたいと思っています。

<年長組> ひよこ・年少とわらべうた、リレー

年長組の活動の中で、まず満3歳児クラス、年少組とわらべうた遊びを行いました。年長児が拍を意識しながら行うことで、小さい学年のお手本になったり、手をつないで優しく声を掛けながら行うなど、より年長児らしく成長していく姿にもつながっています。今日は、“集合”という活動の中で、異年齢と関わり一緒に楽しく過ごしましたが、普段からも縦のつながりを大切にしている、そのことを通して、異年齢同士が仲良しになっています。その後に行ったクラス対抗リレーは、運動会に向けだけでなく、「体づくり」のために、春からどの学年もかけっこやリレーに取り組んでいます。運動が得意な子だけではなく、苦手意識を持っている子もいますが、“速い・遅い”ではなく、“その子なりの全力で走る”ということを目標にしています。そしてそのことを通して、爽快感や、開放感を感じてほしいという思いで取り組んでいます。また、今日見て頂いたように、リレーの後クラス活動の中でリレーのことについて話をしています。今日うまくいったことは何だったか、うまくバトンを繋いでいくにはどうしたら良いかななどを子ども達と相談しています。そうして、クラスで作戦をたてて、次のリレーで実践し、みんなで頑張ることで、クラスの団結力がどんどん強まっていきます。リレーは「クラスづくり」という面でもとても大切な活動となっています。

☆保育研究☆

質問がありませんでしたので、感想を頂きました。

(発言者1)

ふたば組(年少組)に入り、クラス活動を見ました。子ども達はよく話を聞いていて、保育者と子ども達の繋がりをとても感じました。また、手遊びに様々な変化をつけていて、楽しかったです。園内が綺麗で、ボルダリングの設備も良いと思いました。トランポリンで遊んでいる子ども達は、様々な技ができていて凄いと思いました。

(A) 日々の保育の中で、“遊ぶ時には思い切り遊ぶ” “頑張る時には頑張る”(解放と集中)と「メリハリを付ける」ということを大切にして保育をしています。

(発言者2)

年中組のリズム運動を見ました。椅子を持って移動をする時に、一人一人が友達との間隔を取りながら、きちんと持って移動しているのがすごいと思いました。また、友達のことを見て応援したり、子ども達がいきいきしていて、見ている方が清々しい気持ちになる程でした。年少組でも話していましたが、“メリハリ”の積み重ねがこのような姿になるのだと思いました。遊ぶ時には思い切り遊ぶ大切さを感じました。園内が綺麗で気持ちよく見せてもらいました。

(A) 保育の中で常に“パターン化しない”ということ意識しています。今回は、椅子を持って並んで移動しましたが、いつもそうではありません。指示をされて動くのではなく、時と場合によって考えられる子ども、臨機応変に動ける子ども達になって欲しいということを目指しています。

テーマ 『主体的な遊びの中で見られる子どもの 気付きから集団遊びへの展開・発展』



◆司会者 本間 雄太 (あけぼのこども園)

◆記録者 本間 雄太 (あけぼのこども園)
山谷すみれ (あけぼのこども園)
津田 勇平 (あけぼのこども園)
河村 葵 (あけぼのこども園)
菅原あさみ (あけぼのこども園)

今回は、ECEQ公開保育の手法を取り入れながら、日常の保育をする中で、各担任が悩んでいること、さらに発展させたいこと、多角的な子どもの姿の見取りや保育実践方法などを参加いただく各園の先生方に質問をする方法で行った。公開クラス毎に「問い」と称した質問事項を模造紙に記載掲示し、参加の先生方が各々付箋に回答を書いて添付していくことで、公開保育を行った当園が主体となって自らの保育を俯瞰できる機会とした。

☆公開保育交流

年少しろ組 活動：自然遊び（自然の中を散策）

ねらい 季節を感じながら自然の中でのびのびと遊ぶことができる。生き物や植物に興味を持ちながら関わる事ができる。

これまでの保育と当日の子どもの様子

1学期では、園バスで野幌森林公園や近くの公園に遊びに行き、自然の中を散策する楽しさを味わってきました。草花を摘んだ時に感じる微細な感触や匂いを感じたり、どんな所に虫が隠れているか土の中や葉裏を探して友達と観察をしたりと自然のおもしろさ・不思議さを子ども達は体験してきました。その季節・その日だから出会える存在（エゾハルゼミの大合唱、桑の実の味、葉

っぱや花の匂い、雨上がりの地面の感触など）に対して生き生きとした様子の子ども達です。

当日は、公園内の散策を始めると、以前はあった桑の実が枝にない事に気づき、「食べたかった～」と残念がる声や、「鳥とかが食べた？」と子どもなりに想像する様子が見られた。どんぐり・くるみを集めたり、落ち葉を見て色が黄色や赤に変わっている事を見つけたりと季節の移り変わりを感じている様子でした。他にも、とんぼを素手で捕まえられる様になった友達を真似て後ろを追いかける姿が見られたり、友達と土を掘って虫探しを楽しんだり、子ども同士が考えて遊びに発展する様子が見られました。

(問い)

園庭でも虫探しや草花を摘んで遊べる環境にしていきたいと考察中なのですが、みなさんの園では園庭で自然体験ができる様な環境をどの様に準備しているか、工夫をしているかを聞かせて下さい。

年少みずいろ組 活動：ゲーム大会(転がしドッチボール)

ねらい 楽しさや思いの共有の経験を通して集団遊びへの展開のきっかけを作る。

これまでの保育と当日の子どもたちの様子

1学期中の園生活の中で友達との関わりも増え、以前よりも『友達と一緒に』という気持ちが高まって来ていました。集団で遊ぶ事にも「楽しい」という気持ちを持ち、自由遊びの中でも4~5人で遊ぶ姿に繋がればと思い今回のゲームを行いました。数回しか行っていないゲームでしたが子ども達も楽しく参加している姿がありました。

(問い)

私たちはゲーム遊びがグループ活動のきっかけとなったり、ゲーム遊びを通して年少さんの集団性を育てていきたいと考えています。皆さんの園で4~5人のグループで楽しめるゲーム遊びはどんなことを行っています。

年中あか組 活動：室内で選択活動

ねらい 主体的に選択できる遊び環境の中で小集団のイメージの共有を図る。

これまでの保育と当日の子どもの様子

1学期から保育環境の中で一人ひとりが好きな遊びを選択し、見つけ、イメージを友達と共有し始め、認め合い、遊びを発展させる姿が少しずつみられるようになってきました。本日はいつもある遊び・ままごと・積み木・絵本・段ボールのお家・ブロック・三つ編み遊び・その他にも「鉄棒をしたい！もっと上達したい！」という声から鉄棒を子ども達と一緒に運び込み環境を作り、思い思いの遊びを楽しみました。

(問い)

私たちは子ども達が「楽しそう！やってみようかな！」という気持ちをもって遊びに入り込めるような保育環境を日頃から考えるようにしています。その時その時の子どもの興味関心を引き出すためにある、環境（コーナー・素材・工夫・遊びの展開方法など）があれば教えて下さい。また、私たちのクラス的环境でさらに食うできることなどがあれば教えて下さい。

年中もも組 活動：お話遊び

ねらい イメージの共有を通して集団遊びの楽しさを味わう。数や量の概念に触れる。

これまでの保育と当日の子どもの様子

4月から「こびとのくつや」の絵本を用いて、お話を楽しんでいます。子どもたち自身がそれぞれのイメージを膨らませながら、こびととのやり取りや活動を楽しむ姿が見られます。本日は、お話の世界に入り込み、グループの友達と協力してゲームを楽しむことをねらいに保育をしました。綱ゲームという遊びの中で、ものの長さや大きさの違いに気付き、比較しながらゲームを楽しんでいました。自分の考えや発想を保育者

や友達と伝え合い、遊びを展開していく姿もみられました。

(問い)

「こびと」という架空の人物とのお手紙のやり取りの中で、子どもたちの発想や想像を大切にこの活動を行っています。子どもたちの何気ない会話のなかで、自分の発想や考えを伝え合う姿が見られ、中には面白い考えや驚かされる発想も出てきて、今後もその言葉を大事に保育していきたいと思っています。今日の活動の中で、自分のイメージや発想を伝えようとしている場面や、お話の世界に入り込み会話を楽しんでいる場面はありましたか？また、今後の課題としてさらに工夫できる点や皆様の園で行っているお話遊び、劇遊びの活動があれば教えて下さい。

年長みどり組 活動：鐘リレー

ねらい 共通の目標に向けて話し合いを深める

これまでの保育と当日の子どもたちの様子

初めはその都度チームを分けて勝負をして純粋に鐘リレーを楽しんでいた子ども達。一人一人がチームの一員という自覚を持ち取り組んで欲しいという願いから2つの固定のチームを組みました。「どうして負けたのか」「どうしたら勝てるのか」等、子ども達自身で考えていけるように勝負の後には作戦会議の時間を設けています。チームでの話し合いを繰り返していくうちに子ども達一人一人の中の勝ちたい気持ちが育っていきチームの団結力も深まってきているところです。当日も作戦会議の内容を確認し「次は勝つ！」「次も負けない！」と両チームとも気合を入れて取り組んでいました。

(問い)

あけぼのでは、運動会など行事の中で年長児が係りの仕事として競技の準備や進行をしています。皆さんの園では、年長児が主体となって進めている行事はありますか？また、どのように取り組んでいますか？

☆公開保育研究

(問い)に基づいて、公開園側から寄せられた付箋に対して質問を行った。各クラスからの質問に参加者5名より回答をいただいた。

回答いただいた内容については、自園だけではなく各参加園の保育実践の共有の機会にもなり、大変有意義であった。お寄せいただいた沢山の付箋については、各クラス担任において俯瞰し、公開園における今後の保育実践に活用する。

テーマ『夢中になって』



◆司会者 青木 希望 (大麻ひかり幼稚園)

◆記録者 川浪 愛実 (大麻ひかり幼稚園)

☆公開保育交流

(年少 ひよこ組)

たくさんの素材に触れて年長児や年中児に助けをもらいながら楽しむことをねらいにして自発遊びを行っている。砂場遊びをじっくり楽しんだり、保育者にブランコを押してもらって喜んだり、木の実や草木を集めてお友だちと見せあったりと、様々な姿が見られる。泥団子遊びでは、最初泥で汚れてしまうことが嫌でなかなか泥水に触れようとしなかった年少児でしたが、先生や他の子どもたちが楽しんでいる姿を見て、少しずつ入っていき、泥団子を作りながら顔やお尻が汚れていることを気にせず、お友だちと笑い合っただけの泥団子作りを楽しんでいた。年長児が泥団子を作る様子を見て、真似して作ろうとしてもなかなか上手く出来ず、それに気づいた年長児が年少児に作ってあげる姿も見られた。また別の年少児は、泥の水たまりを使って川を想像し、水を流して川を作り、その先に出来た大きな水たまりを海に見立てて砂場用のたこや魚の型のおもちゃを泳がせていた。朝の集いや礼拝では、紙芝居など視聴覚を使うことで神様のお話を興味深く聞く姿も見られるようになってきた。賛美歌を覚えて歌ったり、災害で困っている人たちのため、欠席しているお友だちのためにお祈りをした

りする姿が見られる。普段の活動では、リズム遊びや表現遊びをして、音楽に合わせて体を動かしたり、動物になりきってのびのびと活動を楽しんでいる。満三歳児が数人おり、園生活のリズムを崩さず生活習慣を大切にしながら、一人ひとりが安心して楽しめるように保育計画を立てている。

(年中 りす組)

活動のねらいして、自発遊びの中で、好きなお友だちと好きな遊びをじっくり楽しむことで、安心して過ごしたり、心の底から好きなものにどっぷりと浸れることの大切さを知り、伝えられたらと思えば保育している。園庭には多くの自然があり、草花に触れたり、虫捕りをして命の尊さや生命の不思議などを感じる機会もある。色水遊びで、花を摘みどんな色が出るのかワクワクしながらすりつぶし、違う花や草で試してみたりと、小さな研究室かのように楽しんでいる。ある園児はジュース屋さん、ある園児はお茶屋さんなどになりきって遊びを展開している。色だけではなく、ハーブなどをすりつぶして香りも楽しんでいた。作った色水を明日も使いたいという園児の要望に応え、ペットボトルを用意したり、離れた水道まで何度も水を取りに行かなくても済むようにと使わ

なくなったやかんに水を入れ使用し、遊びが充実していた。年長児が花を大切に扱っている姿を見て真似したり、年少児に道具の使い方や片付け方を教えるなど、身近な自然に触れながら異年齢の関わりが深まるよう設定している。順番に道具を使ったり、貸し借りなどの経験も出来る。クラス活動では、他のクラスとは違い、円形の座り方で朝の集いや礼拝を行っている。支援が必要な園児が数名いるため、安心して自分のクラスに居やすいように配慮している。聖話では、素話として聞くことで想像力・集中力がつき、また、聖書の話の理解が深められるように思っている。礼拝に参加し、お祈り・聖話・賛美歌など基本を大切にしながらねらいも考えている。今後も、支援が必要な園児とともにクラスの子どもたち全員が楽しく前向きに生き活きと、愛されていることを感じてもらえるよう保育をしていきたい。

(年長 エルマー組)

年長は、間違えてもいいから、やりたいと思ったことを「やってみる」ということ、そして「考える力」を目標に保育をしている。しゃぼん玉の活動では、まずしゃぼん液から作ってみることから始めた。分量をどうしたらよいか保育者と考え、最初は洗濯のりでベタベタな液が出来上がった。次の日から、分量を変えたりガムシロップを入れてみたり、考えながら取り組む姿が見られた。しゃぼん玉の道具は、うちわの紙を剥いで作ったり、大きなしゃぼん玉作りをするために割り箸とタコ糸などを使って作った。作り終えた後には、その道具で大きなしゃぼん玉を作るにはどうしたらいいかとコツを考え試す子もいた。子どもたち同士、試して上手くいったことを伝える姿、どうやったら上手く出来るのか聞く姿も見られるようになった。染め物遊びでは、玉ねぎの皮から色が出る不思議を感じながら、ハンカチにどんな模様が出るのか楽しみにしている。輪ゴムやビー玉を使ってハンカチに模様をつけていて、上手く出来ない年少児の手助けをしたり、年中児にはやり方を教える様子も見られた。活動の中で、鍋は熱いから気を付けてねと他のクラスの子を心配する声も聞こえてきたが、自分たちも鍋の中を覗きたくて近づきすぎてしまうこともあった。他にはどんなもので染め物が出来るのかと尋ねてくる子もいた。この活動を通して、年少中児が自分たちを見て真似ているということに気付き、最後の細かいところまで綺麗に片付けをするようにもなった。「これやってもいい?」という確認の多いクラスでしたが、「これやりたい!」と言う子も増え、考える楽しさや挑戦する力がついてきたように思える。卒園する頃には考える力が「自分」から「相手」に向けられるようになり、思いやりあふれる子どもたちになってほしいと願ってカリキュラムを立てている。

思いやりの心を育てるためには、たくさんの経験をし、人の心の痛みを理解していくことも大切だと思う。そのためにも安心して失敗できる環境を作り、間違いを笑い飛ばしていけるような保育を目指している。

(ポートフォリオについて)

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について、子どもたちの日々の様子をポートフォリオにして掲示している。活動の一コマの写真を掲載し、その様子の中で、10の姿にどのように当てはまるのかを色の濃さで表示する。目標や評価・考察を記載し、子どもたちの成長の様子が保護者の方々にも伝わるように記載している。今回は、年長エルマー組のとうもろこし畑のかかし作りについて掲示した。今年の4月に畑で何を育てるのか子どもたちと相談した。昨年年中の時に栽培したとうもろこしがカラスに食べられてしまったという悔しい経験から、もう一度とうもろこしを育ててみようということになった。とうもろこしを育てるのは良いが、またカラスに食べられてしまうのではないかという声を聞こえてきたが、一人の園児が、食べられないようにするためにみんなで考えようと声を上げた。その後、園児一人ひとりがとうもろこしをカラスから守るためにどうしたら良いか、家に持ち帰り考え、後日それぞれが考えてきたこと、家族に聞いたことやインターネットで調べたことなどを発表した。テグスを張る、キラキラしたものを付ける、かかしを作るなど様々なアイディアが集まり、話し合いの結果かかしを作ることに決まった。作り始めは、一人ひとり割り箸を使ってそれぞれで製作していたが、そのうち数人のグループで考え始めた。まず設計図を描き、竹の棒に新聞紙を丸めた頭や服などを使ってかかしを製作し畑に設置した。しかし、その日の夜に雨が降り、次の日には新聞紙がすべて破れ落ちてしまっていた。なぜ新聞紙ではダメだったのか話し合い、様々な紙を水の中に入れてどうなるのか観察した。その結果、紙で作るのは適さないと気付き、次は雨に濡れても大丈夫な素材を考え、自分たちがよさこいを踊った時に着ていた不織布のハッピーを着せてみたり、女の子が縫物をしてみたいという声から布で作ってみたりと、改良されたかかしが完成した。このかかしのおかげか、無事にとうもろこしを収穫し、子どもたちで相談して決めたコーンスープにして美味しくいただくことが出来た。より質の良い保育をするために、私たちが行っている反省・考察を記録しながら、子どもたちの成長を今後も見守っていきたい。

テーマ 『戸外で遊ぼう』



◆司会者 今井 香織 (大麻藤幼稚園)

◆記録者 金澤 聡子 (大麻藤幼稚園)

☆公開保育交流

〈内容〉 戸外遊び (園庭や近隣の公園)

- ・日頃から取り組んでいる遊びの中から好きな遊びを選んで遊ぶ

〈ねらい〉

- ・ルールを守りながら、友だちと協力したり身体を動かしたりして遊ぶ。
- ・遊びの中で季節を感じ、様々なことに感謝の気持ちを持つ。
- ・自分の好きな遊びを見つけ遊び込む力をつける中で、充実感を得る。

(虫・生き物)

春はアリに興味を持つ子が多かったため、子どもたちと一緒にアリの巣を作り、毎日観察を楽しんでいた。アリが卵を運ぶ様子、女王アリを巣に入れると、すぐに死んでしまう様子などを目の当たりにし、不思議に思ったことやわからない事は、子どもたちと調べながら観察していた。調べていく中で、アリにもいろいろな種類があるという事、同じ種類のアリとしか共存出来ないという事がわかった。また、ムネアカアリはなぜ1日で死んでしまうのか調べると、虫の死骸を食べる他のアリと違い、甘い蜜を好むという事がわかった。そこで、前日に砂糖水を木に塗るとどうなるか実験してみたところ、ムネア

カアリがたくさん集まってくる様子を見る事が出来、本日の活動でも、砂糖水をムネアカアリの巣に塗り、集まってくる様子を観察した。

他に、園庭にあった巣箱に鳥が巣を作っていたことや、春にカラスが巣を作っていたこともあり、鳥の巣を作る活動を行っていたが、公園にりすの姿を見かけることから、りすの巣を作る活動に発展していった。本日は、木の家を用意すると、ひまわりの種を周りに蒔いて仕掛けたり、木の板をテーブルに見立て、ドングリを並べたりしながら、りすの家作りを楽しんだ。実際に、りすが食べに来てくれることを期待しつつ、これからも子どもたちが「また明日この遊びをしたい!」と思える保育を目指していきたい。

(砂・泥あそび)

砂遊びが好きな子が多く、4月の頃から道具を使って穴を掘ったり、ままごとをしたりして楽しむ姿があった。初めは、道具を片付けず、出したままにしたりする姿が見られ、その都度声を掛けてきたことで、まだ課題が残っているものの、少しずつ自分たちで気づき、片付けが出来るようになってきた。また、初めは個々で遊ぶ姿が多かったが、友だちと関わって遊ぶ姿が見られるようになってきた。

本日の活動では、役割分担をしながらままごとをしたり、大きな山を作り水を流して温泉作りをしたりしていた。プールを作っている子もいたため、温泉と繋げることを提案すると、大きなプール作りへと発展していった。

泥だんごは、自由遊びで毎年取り組んでいる。今年は5月後半から始めた。1日で完成せずに継続して取り組むものだが、年中長児の姿を見て、年少児も興味を持ち、完成を楽しみにしながら取り組む姿が増えてきた。本日は、1名の子が泥だんごを完成させ、喜んでいて。また、1度作った子が2個目に挑戦する姿や、壊れてしまった子が、もう一度頑張ると言い、新しく作り始める姿が見られた。今後も、子どもたちが、達成感や満足感が感じられるように取り組んでいきたい。

(集団遊び)

春の頃は遊びに偏りがあったり、参加する子にも偏りがあったりしたが、遊びの経験を重ねるうちに、子どもたちが遊びを自分のものにしてきていると感じられるようになった。集団遊びのねらいとして、子ども主体で遊んでほしいという思いがある。春の頃は、保育者が遊びを進めたり、提案したりしながら遊んできたが、徐々に年長児を中心に、自分たちで遊べるようになってきた。初めはルールがわからず、年中長児の真似をして楽しんでいた年少児も、ルールがわかるようになり、より楽しめるようになってきている。

本日の活動では、1学期中旬から楽しんでいる「トンネル鬼」や、「おおかみさん今何時」「だるまさんころんだ」など、いつものように年長児が声を掛けて友だちを集めたり、鬼決めをしたりと、中心になって遊びを進めていた。集団遊びに入れたい年少児が、年長児の誘いによって遊びに入ったり、年長児が年少児と一緒に鬼をしてあげたりなど、縦割り保育ならではの姿が見られた。今後も、集団遊びに入り込めない子や、抵抗を感じている子にも、誘い掛けたり、様々な自然を感じられる緑地帯ならではの環境を利用したりして、楽しい遊びを提供していきたい。

(草花遊び)

ここ数年、年長児が自分たちでマリーゴールドを育て、ハンカチの草木染を行っている。年長児の活動として取り組んでいたが、昨年度は自由遊びの中で、色水遊びを取り入れると、興味を持ち楽しんでいたので、今年度はマリーゴールドの他に、オシロイバナやペチュニアなど、色が出やすい花を植えた。1学期はたんぽぽや草を使って色水を作っていたが、2学期になり、花が咲き始めると、様々な色の色水を作り、染め紙をしたり、ジュースに見立てたりして、楽しみ始めていた。

本日は、前日に色水の色を変化させる実験をしたいという声があったので、準備をしていたが、子どもたちからは「ジュースやさんをしたい」という声が上がったので、作った色水をジュース屋さんへと展開させて遊んだ。ただ、ジュースを作ることに時間がかかり、お店屋さんを開店させたのが、片付けの時間間際になってしまったので、もう少し早く展開させていく事が出来れば、やりとりなどを充実させて楽しむ事が出来たのではないかと思う。他に、前日にオシロイバナの色水につけて置いた布が、きれいに染まっている様子に喜んでいての子がいた。その姿に、他の子もマリーゴールドで色水を作り、布を入れ、染まるのを楽しみにする姿が見られた。これまで、色水を作って満足している子が多かったが、染物をして楽しんだり、ごっこ遊びに使用したりと、遊びの幅が広がってきたように思う。今後も違う形で発展させたり、オシロイバナやマリーゴールドの種と一緒に採種しながら、また来年の楽しみに繋げていきたい。

★公開保育交流

(発言者1)

主体的な保育を目指しているというテーマに共感して、貴園の公開保育を選んだ。近くの公園の自然を上手に利用して保育している事、また、虫や、泥だんご、マリーゴールドなどを、遊びに繋げているのが良いと感じた。自園では、森の活動を大切にしたいと思い、森へ遊びに行くが、そこから遊びを発展させていく事に難しさを感じ、課題となっていたので、今回の公開保育では、たくさんの事が参考になった。

クラス活動では、上の子が下の子を面倒みるなど、縦割り保育の良さが見られた。また、コーナー遊びの環境は丁寧に整えられていると感じた。いろいろなコーナーがあると、もっと遊びも充実してくるのではないかと思う。

(発言者2)

・限られた広さの園庭で、グラウンドが無い中でも、近隣の公園を利用して集団遊びをしているところ、偶然リスと出会った事から保育に繋げていくところなど、身近な環境を生かして保育をしていると感じた。また、工事をしている中でも、花がきれいに植えられていたり、虫を捕まえられたらすぐに調べられるように、視覚表示の工夫をしたりなど、遊びの環境がきちんと整えられていた。泥だんごや、染物などは、子どもだけではなく、園に訪れた保護者の方、未就園児の保護者の方などが、どのような活動をしているかがわかるような、視覚表示の仕方が参考になった。

テーマ『お誕生会』



- ◆司会者 大木 桂子 (第2大麻こども園)
- ◆記録者 賀数 祐子 (第2大麻こども園)

☆公開保育交流

<たんぽぽ組>

お誕生会は双子の男の子の誕生会であった。満3歳、5月入園で不安が強く泣いていることが多かった。5月生まれだがお母さんと相談し、2人がお誕生会をしてもらって嬉しかったと思えるようになるまで待とうと時期をずらして行った。ただお誕生会をやればいいではなく、お母さんが入園後にどんな風に2人が慣れていったかや、できるようになったことを感じてもらうなど、周りの子がどんな風に応援してくれてきたかが少しでも伝わる会になればいいなと思いつつ準備をしてきた。課題としてはお誕生会に向けて周りの子どもたちから言葉のプレゼントをするのだが声が小さく周りの子が共有しづらいので自信をつけ言えるようになればもっと変わっていくんじゃないかと思う。

<ちゅうりっぷ組>

今回のお誕生児はご家族にとって4人目のお子さんであった。お母さんは他の兄弟のお誕生会で何度も体験してきているが、その子一人だけに愛を伝えられるこのお誕生会の意味や大切さを教えてもらったような気がして、担任も改めてそう感じる事ができた。年少児はまだ前に出ておめでとうと言うのはドキドキできない子もいるが、朝の時間にそういった子におめでとうの気持ちを伝えられる様に一緒にプレゼント作りをして関わるようにしている。

<こすもす組>

お誕生会は一人一人の会を行う。子ども達は相手にどんな風に気持ちを伝えるのか、どういう風にお祝いしたら喜んでくれるかなと考えられるようになってきている。どんなプレゼントにしようかなと考える子も増えてきた。今日のお誕生児の子は、ママごとやお話が好きな子で、昨日のインタビューでは、お花が好きと言っていた。すると花束を持ってきてくれた子や絵本を読むときに使ってねとおりがみのしおりを持ってきてくれる子、はらぺこあおむしのペープサートを持ってきてくれる子がいた。自分の気持ちをどういう風にしたら伝わるかを子ども自身が考えている姿が増えてきた。

<あじさい組>

お誕生会の日には朝の自由遊びの時に花を生けて誕生テーブルに飾ることを保育の中で行う。いずれ子どもたちの生活の中でそのことが生きたり、心の中にも流れていくということを信じて続けていっている。お誕生会は2学期に入ってから年長と共に他のクラスのお誕生会を見学に行った。どんな風に言葉をプレゼントしているのかというのを間近で見てたくさん刺激をもらって帰ってきた。次の日のあじさい組でのお誕生会では、年長の声がいっしょより大きく、物のプレゼントではなくその子が好きなことをちゃんと考えて歌のプレゼントをしてくれ、はじめてそのようにする子を見て嬉しい気持ちになった。

<ひまわり組>

お誕生会は担任自身も緊張していたが子どもたちは変わらない様子で一人一人と目が合うと頼もしい姿であった。普段通りの穏やかな表情で誕生児に向けたみんなの温かさを感じた。毎日たくさん子ども達と向き合う中で全員とじっくり関わることは難しいがお誕生会だけはその子にたっぷり気持ちを贈ることができ誕生児は仲間や親や担任からたくさん大切にされているんだなと感じられると思う。担任とその子との特別な日となっている。

★公開保育研究

(発言者1)

就学前の年長の活動として文字や数字にはどのように関わっているか。

(A)

部屋には時計がない。文字や数字も部屋ではあまり見なかったと思う。当園は知的なことはある程度排除している。それはなぜかと言うと知的なものが入ると模倣する力、遊ぶ力、想像する力などたくさん力が弱まってしまふ。知的なことに関しては6歳を過ぎてから、つまり小学校に行ってからで十分ではないかという考えに基づいている。名前等の文字は個人のマークを絵で表示して、文字に触れないようにしている。知的な刺激よりも自由な空間の中で遊べる力を養う。

(発言者2)

縦割り保育の中で絵本の選び方はどうしているのか。運動会などはどのように活動しているのか。

(A)

絵本を選ぶ時は年齢に合わせて選ぶよりも、絵本を通して何を子どもたちと共有し、どんなことを子どもたちに伝えていきたいかということを意識して選んでいる。行事に向かっていくために1冊選ぶこともあるし、卒園前には最後に子どもたちに伝えたいという年長に的を当てて、絵本を選ぶこともある。その時々、どこに的を当てていくかということから選んでいる。難しい内容の絵本はただ読むだけでは年少は長くて集中が切れてしまうこともあるのでその時は人形劇におろして、子どもたちが関心を持ち、何だろうと興味を持てるように工夫しながらおろして異年齢の中でも共有できるようにしている。

(A)

2階の絵本の部屋には人形劇の人形が飾ってあったと思うが歴代のご父兄の方々が手作りしてくださったものや教師の手作り。絵本の中でも素晴らしい絵本は人形劇におろしている。行事でも絵本を使うが、質の高い絵本、絵の美しいもの、ずっと子どもたちの心に残ってほしいもの、が選ぶ基準になる。ですから、今年度の運動会で

も斎藤隆介さんの「天の笛」を題材に最初から最後まで話にのっとっている。のぼり棒をする、跳び箱をするといったときに絵本の話に乗せて、鳥が飛ぶように走る、太陽に突進するようにのぼり棒にのぼるなど子どもたちがイメージしやすいように絵本を取り入れる。年少が出来ないこともほとんどなくメルヘンの中で一緒に乗り越えていくというスタンスで行う。発表会は音楽関係での発表に年長はメロベル、年中は楽器、年少は劇ごっこをしながら音楽遊びを取り入れる。クラス劇は縦割りのままで、年少も「赤ずきんやりたい」と言う、「いいよ、やっついいよ」と受け入れる。年長が必ずしも主役じゃない。やりたい役を選んで演じて、ご家族の皆さんにその姿を見てもらう。

J会場 大麻まんまるこども園

園長 宮崎 善昭

〒069-0844 北海道江別市大麻西町15番地

テーマ 『自由な表現活動』



◆司会者 菅野 千里(大麻まんまるこども園)

◆記録者 上枝 千優(大麻まんまるこども園)

☆公開保育交流

「自由遊びの自由化」

普段は登園するとシール帳にシールを貼り、身の回りの整理をしてから、自分のクラスの中のみで自由遊びを行っているが、「自分のやりたい遊び1つ見付ける」「他クラスの友達とのかかわりを持つ」ことを目的に、週に1、2回はホールや中庭も開放し、クラスもそれぞれの遊び毎に分けることで、自由遊びに広がりを持たせている。日によっては、ホールにトランポリンを出したり、中庭でボールや縄跳び、〇〇組はパズル、〇〇組は塗り絵等、様々なコーナーを作り、子ども達が楽しめる様に工夫している。始めは自分の遊びを見付けられない子も居たが、徐々に慣れ、色々な遊びを楽しめる様になってきている。

公開保育当日は中庭、カプラ、折り紙、粘土、4つの自由遊びを行った。それぞれ自分の好きなコーナーに行き、天気の良い外で思い切り身体を動かして遊ぶ子や、カプラで高いタワーや家を完成させようと頑張る子、折り紙の本を一生懸命見つめながら完成させようとする子、粘土で食べ物や動物、虫を作る子等々、様々な姿が見られた。今後も色々なクラスの友達と色々な遊びを楽しめる様に“自由遊びの自由化”を行っていきたい。

さくら組「すごろくゲーム」

1学期、様々なゲーム遊びや触れ合い遊びを楽しむ子ども達の姿があった事から、クラス皆ですごろくを作り、みんなの好きなゲームや活動を行いながらゴールを目指そう！と話をしていった。

運動会で行ったバルーン等、コマ毎に行う活動内容は子ども達と考え、絵や字も子ども達の力で描いてもらい製作したことで、当日に期待を持っていた。

1か2しか出ないすごろくを二人一組で振り、止まったマスに書いてある活動を行いながら進んでいった。

当日は欠席の子が多い中だった為、子ども達と決めたペアで行えない子も居たが、二人一組ですごろくを振る事や、そのコマ毎の活動を普段と変わらない姿で楽しんでいった。

すみれ組「おばけのファッションショー」

普段から製作を楽しんだり、まだ少し恥ずかしい気持ちがある子もいるが、自分を表現するのが好きな子ども達。クラスで「おばけのばけちゃま」を取り入れていたことや、季節柄、また、年長児がお泊り会に出掛け肝試しを行ったばかりというのもあり、今回はおばけのファッションショーを行っていった。

当日は自分の服を作り、お面を付けて、赤いランウェイを楽しそうに歩いていた子ども達。

最後は全員で「おばけのばけちやま」を踊り、楽しむ姿が見られていたので良かった。

ばら組「野菜ビンゴ」

1 学期、プランターで野菜を育てたところから、今回の野菜ビンゴに繋げていった。

クラスで野菜スタンプやクイズを行い、野菜に触れていった子ども達。野菜が少し苦手な子ども、自分の育てた野菜なら…と食べる姿も見られた。

当日は子ども達と作った野菜のビンゴを行い、グループ毎に対決を行った。

同じグループ内に年長・年中・年少がいたことで、それぞれ声を掛け合ったり、教え合いながら遊ぶ姿が見られ、ビンゴになった達成感を味わえた。

すずらん組「段ボールで家作り」

1 学期に家作りに興味を持てる様、「100 かいだてのいえ」の絵本を読み、まずは布を使って家作りを行っていた。

2 学期に、今度は段ボールで作ってみたいという話が上がり、グループ毎に“お菓子の家”や“おばけの家”等、アイデアいっぱいの家が完成した。

当日はその家を使って遊び、グループ毎にどこが難しかったかを発表してもらい、「組み立てるのが難しかった」という子ども達が多かった。

☆公開保育研究（質疑応答）

発表者①

子ども達がきちんと話を聞けていて、落ち着いている様子があった。ビンゴゲームを見ていたが、縦割保育という事で、年長のリードがありながら行っていたのが良かったと思う。

自園も縦割なので、子ども達の姿を重ねながら見ることが出来た。

発表者②

色々なクラスを見ていたが、どのクラスも子ども達が楽しんで行う姿が見られた。

また、朝の会や帰りの会でも、子ども達がきちんと話を聞けていたので、普段から色々な行事や活動を楽しんでいることや、メリハリが付いた保育をしているんだなというのが伝わって来た。

発表者③

子ども達が伸び伸びと元気に過ごしているのが素晴らしいと思った。

すごろくゲームを見ていたが、子ども達がコマ毎にバールンやゲーム遊びを行う姿を見て面白いなと感じた。

質問:子ども達が登園の際に帽子を持っていなかったが、普段はどうしているのか。

A:戸外で散策や活動を行う際はクラス毎のカラー帽子を着用している

[全体を通して]

縦割保育を通して、年長の子どもがクラスのリーダーとして年中・年少の子どもに対して気遣いをし、活動を支援していくまた、年中・年少は年長の行動を見ながらフォロアーとして模倣していくことを教育効果として考えながら年間を通して様々なクラス活動、全体行事に取り組んでいます。

また、行事に参加するにあたり、クラスによる話し合いがあり、話し合いに参加する子どもの積極性、主体性を引き出せる機会として教師が支援をしていきます。

特に年長児童には、意見を率先して発信すると共にその理由を述べる事が出来るよう働きかけていきます。

活動を通して子ども達の様々な能力が発揮されますが、能力を絶対的に評価し序列をつけるのではなく、個々の持つ能力特性を相対的に評価し、一人ひとりに出来る限り寄り添いながら成長を支援していきます。歩み続けるのは子ども自身であり教師は共に歩みながらも見守り続け、時に助言をしていくという子ども主体の保育を心がけています。

将来に向けて、子どもたちが大人になった時に、仕事、家庭生活、地域社会において生起する事柄に対して興味を持って積極的に関わるとともに、夫々の人間関係を調和しながら相互に貢献していくことのできる人間として成長して欲しいという願いを持って日々子ども達と接しております。そして、子どもにとって園は、楽しい自分の場所であるという実感をもってもらうことが大切であると考えています。

テーマ 『一人ひとりが尊重される保育』



◆司会者 太田 朱美 (元江別わかば幼稚園)

◆記録者 佐藤 桂子 (元江別わかば幼稚園)
白田 望 (元江別わかば幼稚園)
川上 有利 (元江別わかば幼稚園)

☆公開保育交流

保育内容：友だちや教師と関わる中で思いを共有し、興味・関心を持つ。

年少75名、年中70名、年長67名、低年齢児の0歳～3歳も32名、総数244名の認定こども園です。

「今しかできない大切なこと」

それは、上手に何かができることではなく、仲間と一緒に心ゆさぶられる実体験をすること。その子がそのまま、褒められ、感心され、喜ばれ、尊ばれ、大事にされることを大切にしたい。その子その子の歩幅を大事にしていきたいと思い、日々保育にあたっています。

当園の考え方としては・・・

- ①「遊び」の中では、色々できてしまいます。これが真の実力と捉え、遊びを通しての学びを大事にします。
- ②「ルールにのせて形にはめてしまう」のではなく、その子のヤル気、発見、感動に共感し、大事にします。
- ③「子どもは豊かに伸びていく可能性をその内に秘めている」ということを確信して、全教職員で一人ひとりの子どもの育ちに向き合います。

④仲間とともに励まし合い、助け合い、協力し合い、考え合い、相手のことをおもいやる大事さを知ります。

⑤原体験を大事にします。五感で感じる事が大事です。

※本日の保育の各学年の活動のねらい、内容について
<年少 もも組・さくら組・いちご組>

○テーマは『表現してあそぼう』

1学期から毎日【遊び】を楽しむことを積み重ねてきました。その中で、何かを発見したり、その事を誰かに伝えたくなったり、思わず笑ってしまったり、教師の真似をすることが楽しくなったりとたくさんの「その子なりの表現」が見られるようになってきました。今回のテーマである『表現遊び』について、園外でも伸び伸び自分のやりたい遊びをみつけ遊んだり、普段から動物になりきったり、音楽に合わせて踊る(体を動かす)こと、一つの形から創造してみようとするなど、さまざまな『表現』を楽しめるようになってきた経緯を公開保育に実践しました。これからも子ども達の存分に楽しむことを大事にしながら教師と共に過ごしていきたいと思っています。

<年中 ちゅうりっぷ組・すずらん組>

○テーマ『つくってあそぼう』

1 学期から友だちと一緒に考えて作り上げていくことを大切にしていました。毎日の自由遊びの中で子ども達の発想や発言を遊びに取り込み展開していきました。

ちゅうりっぷ組では、画用紙を使ってピザ作りをしていた時に「ピザがまもほしい」という子どもの一言で展開していったものです。大きなピザがまをみんなで作ったり、ぎょうざの皮を使って本当に食べれるピザを作り食べたりもしました。自分達で小麦粉粘土で作っていた生地に、当日は具材をトッピングし、本物ようなピザを制作しました。雰囲気作りにも今回意識し、教師が役になりきって行いました。

すずらん組は、夏ならではの水を使った遊びを通して、浮くもの、沈むものがあることに気付き実験の毎日が始まりました。園庭にあるものを水を張ったタライに浮かべてみたり、幼稚園にあるもので公園にあるもので浮かぶものは？沈むものは？頭を突き合わせて不思議さや新たな発見に目を丸くしていました。体験をしていく中で、その先に魚がありました。自由遊びでも魚つり遊びをして、魚の興味を持ってきていました。水の中で生きている動物もいるのに、生きられない生き物があるのはなぜだろう。と話が発展していき、今回制作活動をしたスイミーに繋がりました。

<年長 すみれ組・ひまわり組>

○テーマ『自然とあそぼう』

年長クラスは、自然との関わりを大事に過ごしてきました。実体験を通しての気付きや不思議さの発見を共有したいと考えていました。幼稚園の周りにある数々の公園に行き、お散歩マップも作成しました。どこの公園にどんな草花があったか、わからない植物があれば幼稚園に戻ってから自分たちで図鑑で調べました。身近な自然に興味湧くように一つひとつの活動を大事に子どもたちと共に過ごしてきました。

すみれ組は、公園で拾ってきた物をどうしたら大事にできるかと、子どもたちと考え合い「押し葉（花）」という方法に気付きました。当日は、その自分たちで押した草花を使って飾りを制作しました。

ひまわり組は、拾ってきた葉っぱが「何かに見えてくる！」と、見立てる事が楽しくなり、当日は自分たちで拾った草花をパズルのように組み合わせて作品をつくりました。これから紅葉していく木々があることや風が冷たくなっていくこと、においの変化など季節の移ろいに気付いていく一つのきっかけになったらいいなあと願いを込めての活動でもありました。

☆公開保育研究（質疑応答）

発言者1：（年少）年少組で合わせた活動の頻度は？

A：毎回季節の遊びなど（今の時期では夏ならではの遊び）では、「こんなことを子どもたちと楽しみたい」「この遊びは喜びそう」という内容は、計画をし一緒に楽しんでいます。先日は「かき氷遊び」をし、氷に触れて、その後色水遊びに発展していきました。その他にも、合同リズムを月に1回は計画をしています。また、近くの公園と一緒に散歩に行く事も多いです。活動内容が違うこともあります。月一のカリキュラム会議でクラスの様子や大切にしたいことなどを密に話し合い、他のクラスの子もみんなと一緒に保育する気持ちを持ち、日々保育に向っています。

発言者2：（年中）年中組4人の先生方で共通して大事にしていることは何かまたどうやって思いを共通にしているのか？

A：各担任で毎月のカリキュラムを話し合い、その内容を副担任にも詳しく伝えていきます。特に年中は、友だちとの関わりも増えてきて一緒に何かをするということが楽しくなってくる分、トラブルやケンカ、ぶつかり合いも増えてくるので、その中で1人の人間として、相手を傷つける言葉や態度をしてほしくないの、その点は意識しながら子どもたちと関わっていこうと共通の思いの一つにしています。

発言者3：（年長）自由遊びは、どこに行ってもいいんですか？

A：自分のクラスで遊ばなくてはダメという事ではなく、興味があったり、安心して過ごせる場所や人の傍で遊んでいい事になっています。故に、教師間の声の掛け合いは大事にしています。

発言者4：生き物のお世話が大変そう。先生も学んでいるのですか？

A：カブトムシは保護者の方から幼虫を頂いたり、子どもたちが捕まえてきたものです。教師も知識がない中で子どもたちと一緒に図鑑や絵本・お家で調べてきたものをみんなで共有しながら共に学び育てています。

発言者5：（年長担任から皆さんへの質問）生き物を飼育する中で、楽しいからといって扱いが激しかったり、乱暴になることがあるのですが、他の園さんではどういく対応、お話をしていますか？

A：NHKの放送教育（自然とあそぼう）を活用している。当園ではダンゴムシを飼っていて番組を通して、夜行性だという事や虫の生活を知って感情移入し植物も生きていると感じてくれるようになりました。

テーマ 『運動会に向けての取り組み』



- ◆司会者 亀岡 淑子 (元野幌めぐみ幼稚園)
- ◆記録者 中湖亜杏子 (元野幌めぐみ幼稚園)
- ◆記録者 阿部 梨奈 (元野幌めぐみ幼稚園)
- ◆記録者 鈴木 彩子 (元野幌めぐみ幼稚園)

☆公開保育交流

(年少・すみれ組) 運動会に向けて・フラッグ作り

本日すみれ組には、3名の保育者がおりましたが、そのうちの1名は実習生です。本来は、28名のクラスを担当と副担任の2名で保育しております。

数日前、すみれ組の子ども達に、違う幼稚園の先生達がみんなを見に来てくれる日があることを初めて知らせた時には、「え〜？」と目を丸くして驚いて、そしてこの日をとても楽しみにしておりました。そんな中、優しく声をかけてくださったり、タッチしてくださったりした先生が沢山いたものですから、みんなとっても嬉しそうにしていました。ありがとうございました！本日の年少組の活動は、朝の自由遊びの後に、マラソン、柔軟体操を行ない、合同礼拝に参加した後、設定保育の製作を行ないました。普段通りの保育の流れではありましたが、保育時間が短かったので慌ただしくなってしまった場面もあったかと思えます。そのような中でも、子ども達を急かさなで次の活動にスムーズに気持ちを切り替えられるよう、声掛けなど工夫したつもりです。マラソンは、健康で丈夫な身体作りに期待して日課として取り組んでいます。音楽を流して走っていましたが、大体3分間になるように、曲を選んでいきます。体力がつかだけでなく、保育者の指示に素早く反応出来るようになったり、瞬発力が身についたり、園生活の様々な場面で日々の経験が生かされているなど実感しています。

保育者の指示に素早く反応出来るようになったり、瞬発力が身についたり、園生活の様々な場面で日々の経験が生かされているなど実感しています。柔軟体操も、日課として行なっていますが、こちらは、柔軟性を伸ばすことによって大きな怪我につながらないようにしたり、様々な運動にプラスに繋がることに期待して行なっています。設定保育についてですが、本日の公開保育では、『運動会』をテーマとしておりました。運動会本番は、年少組は、かけっこやクラス対抗のデカパンリレー、お遊戯を行ないますが、応援の時間も楽しく過ごせないかなと検討し、応援グッズとしてフラッグ作りを行なうことにしました。数日前に事前に手形をとったり、スズランテープの好きな色を選んで張り付けたりと、事前に製作していた物を本日仕上げて完成させました。本日は、時間の都合上、普段よりも簡単な製作内容となりましたが、子ども達は、キラキラのシールで飾ったり、スズランテープを慎重にさいたり…、短い時間でしたが、単純な作業に夢中で取り組み、完成を喜んでいたように思います。実は運動会に向けて、応援グッズなどの製作を行なったのは、今回が初めてだったのですが、今回、子ども達にフラッグ製作をおろした時に、とても喜んで、「これで頑張れ〜ってやろうね！」だとか、「ママも応援してくれるかな？」などという声が沢山あがって、今まで以上に運動会に期待して張り切る姿が見られました。今までは、年少さんは、『初めての運動会、泣かないでいてく

れたら、その場に来てくれたらそれで十分!』くらいの気持ちでいたのですが、子ども達の意欲的な姿をみて、「初めての運動会を楽しみに迎えるために、こんな方法もあるんだなあ」と、新たな発見となりました。今回、このような学びや気づきなど、実りの多い公開保育の機会が与えられたことに感謝です。また、なかなか他の園の先生方に保育を見て頂ける機会はないので、本日見て頂いて、ご感想の他にも、気付いたことや、アドバイスなど、もしありましたら、お聞かせいただけるととてもありがたいので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

（年中・たんぽぽ組） 運動会に向けて・遊戯

本日はたくさんの方が見に来てくれるという事で少し緊張し戸惑っている様子の子や、お母さんと離れる際に泣いてしまった子もいましたが、張り切って活動に参加している子も多く普段通り楽しい1日を過ごせたと思います。最近の自由遊びでは、今朝も行ってのように1学期に植えた朝顔やマリーゴールドを使い、色水作りや、色水を使った米づくりを楽しんでいます。自分たちの植えたお花が咲いた喜びを感じながら、日々水やりにも取り組んでいます。また、砂場遊びやごっこ遊びも人気でそれぞれが自分の好きな遊びを思う存分楽しんでいます。本日の活動では、まずオセロゲームを行いました。お遊戯の曲がマスカットという事で、それに関連付けて、ぶどう狩りゲームと名前を変え、マスカットチームとぶどうチームに分かれて行いました。ゲームを通して、勝つ喜びや負ける悔しさ、仲間を応援する気持ちを持ってほしいと願いゲームを進めました。たんぽぽ組の子どもたちは、楽しいことが大好きな子が多いので、日頃からゲーム遊びを取り入れ、闘争心や団結力が生まれていると感じています。その後のお遊戯の練習では、2学期の初めに曲と踊りを子どもたちと確認し練習を開始しました。初めは教師の踊りを真似することが精一杯でしたが、段々と踊りを覚え、最近では自由遊びの時間に「曲かけて!もう一回やりたい!」と言い意欲的に取り組んでいます。本番に向けて、お母さんやお父さんが見に来てくれるのを楽しみに練習しています。中には、まだ踊りに関心を持たずにいたり、人前で表現することが苦手な子もいますが、1人ひとりの頑張りを認め、力を発揮できるように見守りながら、行っています。運動会という行事を通して、頑張った達成感や喜びを感じ、自信に繋がっていったらいいなと願っています。

（年長・ひまわり組） 運動会に向けて・組体操

ひまわり組の子どもたちは年中からそのまま進級したクラスのため、クラスの仲が良くお互いに誘い合いながら元気に大人数で様々な種類の鬼ごっこや花いちもんめ

などの体を動かす遊びを楽しんでいます。また、好奇心旺盛で様々な活動に対して興味を持ち、特に新しく行うことに対して積極的に楽しみながら取り組む様子が見られています。進級して年長としての自覚を持ち始め、新入園児とバスの中で仲良くなり、進んで身支度を手伝ったり自由あそびの時間に「一緒に遊ぼう」と誘って好きな遊びを一緒に遊んだり、自分たちから積極的に関わる姿が見られるようになりました。また、お泊まり会の夜の園内探検で怖くても勇気を出して挑戦したり、畑の野菜収穫や公園の桑の実狩りを通して苦手な食べ物を食べてみたりと、様々な行事を経験する中で苦手な事にも自ら挑戦し、周りにも目を向け視野や興味が広がる姿が見られ、自信につながっている様子が見られています。本日は2学期の大きな行事の1つである運動会で行うマゲームと組体操の練習を行いました。運動会に向けて6月から本格的に練習に励み、力を合わせて協力することの大切さや、みんなで1つのものを作り上げることの楽しさと達成感、また、お互いに助け合いながら仲間意識を育てています。最初は期待半分戸惑い半分で少し不安そうな子もいましたが、練習を積み重ねるにつれておうちの人にかっこいい姿を見てもらおうと張り切って練習していたり「今日も練習するよね?」と練習することを喜んでいたり意欲的に取り組んでいます。特にマゲームでは空いている時間にも「GUTS♪かけて!」と言い曲に合わせて楽しそうに踊っています。本日は沢山の皆さんの前で緊張している子どもたちもいましたが、腕の伸ばし方や振りなどのポイントを自分たちで意識しながら張り切って練習に取り組む姿を見ていただけたのではないかと思います。これからも運動会に向けて子ども達一人ひとりの力を引き出し、伸ばしていけるように関わりながら楽しく練習を進めていきたいと思っています。

★公開保育研究（質疑応答）

質問はありませんでしたので、感想を頂きました。

・朝の自由遊びや運動会の練習をしている子ども達の生き生きとした表情がとても良かったです。先生との信頼関係もしっかり出来ているなあと感じました。

・キリスト教保育の礼拝の時間は、とても良い時間だと思いました。

落ち着いた時間が子どもの心を育てているように思いました。

・活動前の子ども達への言葉がけが丁寧で参考になりました。

・年少組のフラック作り、とても参考になりました。園でもやってみたいです。

・先生達は明るく元気なのが印象的でした。

禁止や否定の言葉をあまり使わず、子どもの意思を尊重していて感心しました。

